

2014年(平成26年)

1月23日 木曜日

夕刊 読賣新聞

肝臓移植後の食道がん手術

順天堂大グループ国内初成功

肝臓移植後の食道がんの手術 た、と発表した。

に、順天堂大の梶山^{とよひさ}美容教授のグループが国内で初めて成功し

食道がんの手術は、食道の大部分を切り取り、胃を細長く持



「病院の実力」をスマートフォンで アイフォン、アイパッドに対応したアプリ発売中。詳しくは、<http://yomidr.jp/page.jsp?id=56155>

ち上げてつなぐ。肝臓移植を受けると胃と肝臓が癒着することが多く、手術は極めて難しい。また、移植後は免疫抑制剤を飲み続けているため、感染症への細心の注意が必要だという。

手術を受けたのは60歳代男性。2003年に食道がんが見つかつたが、肝硬変があり手術は困難と判断され、放射線治療などを受けてきた。肝硬変の悪化から、08年に西日本の大学病院で生体肝臓移植手術を受けた。肝臓と胆管の縫い目がうまく閉じないなどの問題も起きた。13年、食道がんが再発。順天堂大によると、複数の病院で手術は困難とされたが、患者の強い希望で13年12月に手術を実施した。手術は9時間9分かかったが、手術後は順調に回復し、約1か月後に退院したという。梶山教授は「肺と食道の癒着がひどく、時間がかかった。無事終わって良かった」と話す。